

一級河川岡部川改修工事に伴う発掘調査

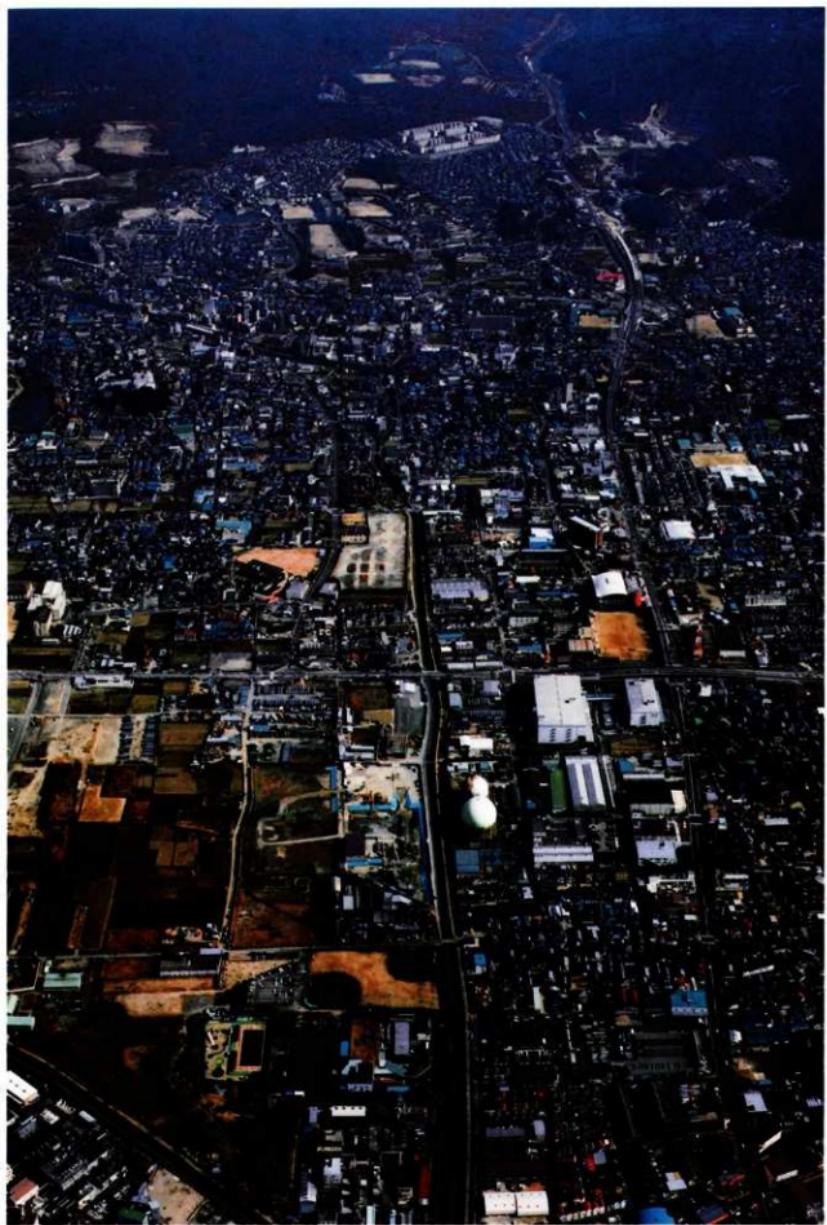
## 南山下遺跡発掘調査概要報告書



2001・3

四條畷市教育委員会

巻頭図版1  
岡部川改修工事完成空中写真



平成13年2月撮影



## 例　　言

1. 本書は、四條畷市教育委員会が平成元年・2年・4年・6年・9年・12年度に一級河川岡部川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として、大阪府枚方土木事務所より委託を受けて実施した四條畷市岡山1丁目・中野本町に所在する南山下遺跡の概要報告書である。
2. 発掘調査の各年度事業は以下の通りである。

平成元年度に試掘調査として、平成元年8月8日～10日まで行った。  
平成2年度として、平成2年7月13日～8月16日  
平成4年度として、平成4年12月7日～平成5年2月5日  
平成6年度として、平成7年1月31日～3月15日  
平成9年度として、平成9年12月22日～平成10年1月9日  
平成12年度として、平成13年2月1日～3月10日

それぞれ発掘調査を行い、その年度末まで遺物整理作業を行った。
3. 発掘調査は四條畷市教育委員会文化振興部生涯学習推進室主任技術職  
野島 稔・技術職村上 始を担当者とし、調査補助員として西川和秀・  
脇坂 潔があたった。
4. 現地調査の実施にあたっては、大阪府河川砂防課、大阪府枚方土木事務所、大阪府枚方土木事務所寝屋川出張所、大阪府教育委員会文化財保護課、岡山自治会、中野本町・西中野自治会、畷古文化研究保存会に御配慮を得た。記して謝意を表する。
5. 発掘調査の進行・本書の作成にあたって、次の方々の御教示を得た。  
記して謝意を表したい。(順不同・敬称略)

関西外国语大学　瀬川芳則・片岡 修、曙光小学校　奥田 尚、大阪府教育委員会　堀江門也・中井貞夫・渡邊昌宏、寝屋川市教育委員会　塙山則之・濱田延充・濱田幸司、交野市教育委員会　真鍋成史、大東市教育委員会　黒田淳…、中達健一、財団法人枚方市文化財研究調査会  
櫻井敬夫・宇治田和生・三宅俊隆・西田敏秀。
6. 出上遺物の整理・実測などについては、野島稔・村上始・佐野喜美・駒田佳子・田伏美智代・斎藤佐智子があたった。
7. 本書の執筆は野島 稔・村上 始が行った。

## 卷頭図版・図版目次

- 卷頭図版1 岡部川改修工事完成空中写真
- 卷頭図版2 岡部川周辺空中写真
- 図版1 岡部川改修工事完成写真
- 図版2 岡部川改修工事完成写真
- 図版3 南山下遺跡 平成元年度試掘調査区全景・試掘穴（トレンチ）スナップ
- 図版4 試掘調査スナップ
- 図版5 南山下遺跡 平成2年度調査区全景・調査区スナップ
- 図版6 調査区全景・調査区スナップ
- 図版7 調査区全景空中写真
- 図版8 南山下遺跡 平成4年度第2遺構面犁溝・井戸検出状況
- 図版9 調査区スナップ
- 図版10 調査区スナップ・桶出土状況
- 図版11 調査区全景空中写真
- 図版12 出土遺物
- 図版13 南山下遺跡 平成6年度調査区全景
- 図版14 調査区スナップ
- 図版15 調査区スナップ・土器出土状況
- 図版16 南山下遺跡 平成9年度調査区スナップ
- 図版17 調査区スナップ
- 図版18 調査区スナップ・石鎌出土状況
- 図版19 南山下遺跡 平成12年度調査区スナップ

## 挿 図 目 次

- 第1図 南山下遺跡周辺地形遺跡分布図  
第2図 南山下遺跡調査地位置図及び岡部川流域の遺跡調査地点  
第3図 南山下遺跡 平成2年度（1990-1）遺構配置図及び断面実測図  
第4図 南山下遺跡 平成4年度（1992-2）遺構配置図及び井戸実測図  
第5図 南山下遺跡 平成4年度（1992-2）遺構配置図及び断面実測図  
第6図 出土遺物  
第7図 出土遺物

## 本 文 目 次

### 例 言

第1章	遺跡の位置と歴史的環境	1	
第2章	調査にいたる経過	5	
第3章	岡部川流域の遺跡	10	
第4章	調査概要報告書	13	
平成元年度（1989-1）		13	
平成2年度（1992-1）		14	
層序	15	溝	19
落ち込み状遺構	19		
平成4年度（1992-2）		19	
層序	20	第1～第4遺構面	20～27
出土遺物	27		
平成6年度（1994-1）		29	
平成9年度（1997-1）		30	
平成12年度（2000-1）		30	

## 第1章 遺跡の位置と歴史的環境

四條畷市は大阪府の北東部に位置し、南山下遺跡は大阪府四條畷市岡山・中野本町に所在する。

当遺跡は生駒山系の西側斜面から派生する洪積層の海拔18~25mの忍ヶ岡丘陵と清滝丘陵との間に東西方向に長い谷地形をなしている。生駒山系から西に、讚良川・岡部川・清滝川・権現川が流れている。南山下遺跡は、この岡部川流域にある。

生駒山系の西側斜面の枚方台地は、北は八幡丘陵から南は南野丘陵までの淀川左岸にひろがる広大な丘陵、段丘があり、北から枚方市船橋川・穂谷川、交野市天野川・寝屋川市寝屋川、四條畷市讚良川・岡部川・清滝川という中小河川によって開かれている。この枚方台地は、原始・古代における幾多の遺跡の存在が知られている。

### 旧石器時代

四條畷市周辺の旧石器時代の遺跡としては、更良岡山遺跡の範疇である讚良川床遺跡では、ハンドアックス・ナイフ形石器・細石器・削器・彫器などが出土している。また、忍ヶ丘駅前から南側にある南山下遺跡で有舌尖頭器が出土し、四條畷市忍岡古墳付近・寝屋川市打上でナイフ形石器が採集されている。これらは枚方台地における旧石器研究上きわめて重要な位置をしめている。

### 縄文時代

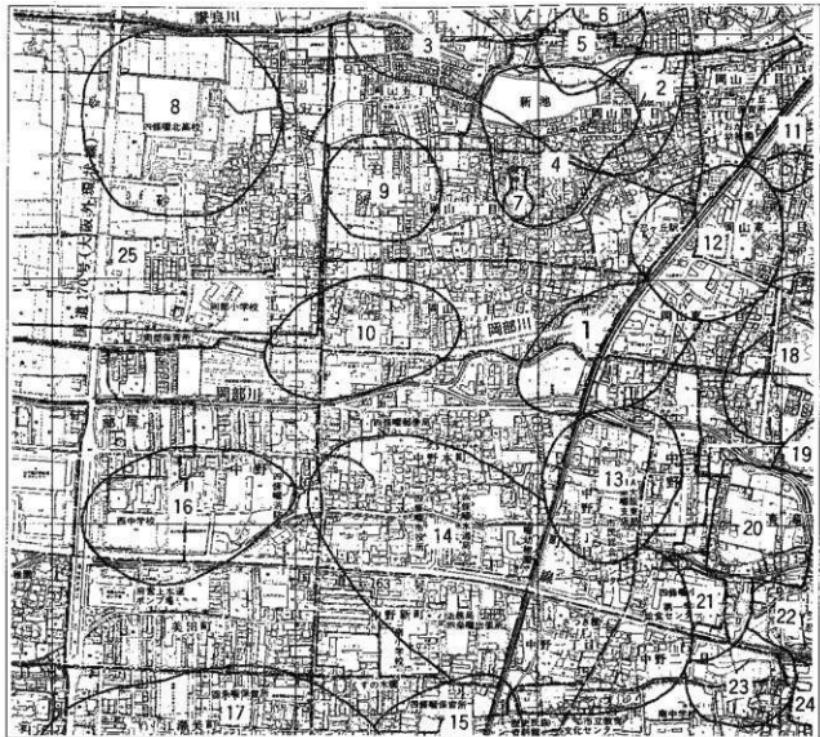
縄文時代においては、近年遺跡が多く発見してきた。四條畷市田原遺跡や、交野市神宮寺遺跡、枚方市穂谷遺跡で米粒文・山形文を施した縄文時代早期の押型文土器などが出土している。これらは近畿地方における最古系の土器である。

縄文時代中期は、四條畷市南山下遺跡・砂遺跡、寝屋川市讚良川遺跡で半截竹管文を施す船元式土器が出土した。

後期・晩期においては、四條畷市更良岡山遺跡で高坏形土器・深鉢形土器・注口土器・土製勾玉・土偶や彫刻石棒などの祭祀具・ヒスイの石斧をはじめ多量の石器類が出土した。他に四條畷小学校内遺跡や清滝古墳群で深鉢形土器や石鎌が出土している。

### 弥生時代

四條畷市雁屋遺跡で弥生時代前期の大壺（高さ78cm）が出土している。この大壺は北



1. 南山下遺跡
2. 貝良岡山遺跡
3. 謙良川遺跡
4. 更良岡山古墳群
5. 謙良川床遺跡・謙良寺跡
6. 三味瀬遺跡
7. 忍向古墳
8. 砂遺跡
9. 北口遺跡
10. 奈良井遺跡
11. 比井遺跡
12. 忍ヶ丘駅前遺跡
13. 奈良井遺跡
14. 中野遺跡
15. 南野木崎遺跡
16. 錐山遺跡
17. 横堀遺跡
18. 岡山南遺跡
19. 清滝古墳群
20. 正法寺跡
21. 城遺跡
22. 人上古墳群
23. 木間池北方遺跡
24. 木間池北方遺跡
25. 四條畷市小学校内遺跡

第1図 南山下遺跡周辺地形遺跡分布図

九州の板付Ⅱ式といわれているものである。その壺に伴い石庖丁が2点出土した。そのうちの1点は耳成山の流紋岩製である。この石庖丁の出土は北河内で最初に稲作が開始されたことを示している。なおこの調査区の50m東で縄文時代晩期末の深鉢が出土している。その他、前期の遺跡は四條畷市田原遺跡、寝屋川市高宮八丁遺跡、大東市中垣内遺跡がある。

中期においては、畿内第Ⅱ様式の時期に出現する高地性集落の寝屋川市太秦遺跡がある。畿内第Ⅲ～V様式では拠点的集落であった四條畷市雁屋遺跡がある。この遺跡で多数の方形周溝墓が確認され、コウヤマキ・ヒノキ・カヤなどの木棺が出土した。なかで

もコウヤマキ製のものは完全な姿で出土した。ヒノキの木棺から完全な人骨も出土した。

この中期の方形周溝墓の溝から墓前祭祀に使われた朱塗りの壺や把手付碗などが出土した。木製品では、双頭渦文が彫刻された蓋付四脚容器などがある。材質はヤマグワで朱彩されていたが、現在は朱の痕跡を確認することはできない。その他、ノグルミ製鳥形木製品は墓で使われた最古のものであった。また大阪府教育委員会の雁屋遺跡発掘調査でも鳥形木製品が出土している。

石製品は大量に出土しているが、特筆すべきものは銅鐸の舌が2本出土していることである。そのうちの1本は徳島の吉野川産の塩基性凝灰岩質点紋片岩である。銅鐸については、「明治44年に、砂岡山から入れ子になった銅鐸2口が出土した」と伝えられる砂山銅鐸があるが、現在関西大学博物館が所蔵されている。その他、分銅形土製品が2点出土している。

雁屋遺跡で後期のV様式に属する土器も多量に出土している。そのなかで出雲の西谷3号四隅突出型墳丘墓で出土した土器と同形のものが3点出土している。その内訳は把手付き鉢（住居跡）・脚付き鉢（円形周溝墓）・低脚壺（包含層）である。

西谷3号墳から多量の土器が出土しているが、これらの土器は葬送儀礼で使われたものであり、各地との交流を示す吉備の特殊土器や北陸系の土器も含まれていた。現時点では、北陸系とされている把手付き鉢・脚付き鉢は西谷3号墳と雁屋遺跡や丹波町大山墳墓群、岩滝町大風呂南1号墓など15の遺跡で近畿北部を中心に出土している。低脚壺は山陰の土器である。

雁屋遺跡は<中期において拠点的集落であり、後期になるとその位置を保っていなかった>と考えていたが、先述の土器は出雲の西谷王との交流を示し、衰退したとは全く考えられない。雁屋遺跡は中期から後期まで拠点的集落として存在した重要な遺跡である。しかし、後期の土器については未整理のものが多く、今後の研究の課題としたい。

### 古墳時代

古墳時代前期においては忍岡古墳がある。全長約90mの前方後円墳である。この古墳の竪穴式石室は保存され見学できる。この古墳築造に関わった集落は確認されていないが今後の調査で発見できる可能性がある。

古墳時代中期になると四條畷市中野あたりを中心にして馬の飼育が始まった。馬は朝鮮半島から運ばれ、渡来系の人々によって飼育された。奈良井遺跡は馬の祭祀場である。

この遺跡から犠牲馬の首をはじめ儀式で使われた人形・馬形の土製品やミニチュア土器が多数出土した。

古墳時代の四條畷市は生駒山系が南北に走り、山麓の西方2kmほどで河内湖となる。生駒山系から、讚良川・岡部川・清滝川・権現川が河内湖に注いでいる。この川が自然の柵となり小規模な牧場に適した環境であった。市内の古墳時代遺跡からは必ずと言っていいほど馬の歯・製塩土器が出土する。また四條畷小学校内遺跡・奈良井遺跡・中野遺跡などで初期須恵器をはじめ韓式土器や韓式系土器が数多く出土し、渡来系の人々の存在を示している。他に、寝屋川市楠遺跡・高宮八丁遺跡・長保寺遺跡などがある。

中期になると墓/堂古墳など次々と築造されるが古墳に伴う形象埴輪は少なく、埴輪のほとんどが集落から出土したものである。古墳からのものでは、忍ヶ丘駅前2号墳で琴を弾く人などがある。集落から出土したものとしては、忍ヶ丘駅前遺跡で人物埴輪・大形埴輪（オスの子犬）・水鳥形埴輪、南山下遺跡で馬形埴輪、岡山南遺跡で家形埴輪が出土している。なお家形埴輪に伴って左足用の木製下駄が出土している。

生駒山系山麓は、馬飼の人々が墓域とした清滝古墳群・大上古墳群がある。この古墳群から横穴式石室が発見された。鎌倉時代に盗掘され遺物のほとんどは失われていたが金銅装中空耳環が出土した。その他多数の遺物が出土している。

#### 奈良時代

古墳時代に生駒山系山麓に築かれた古墳群は、奈良時代の正法寺建立によって整地され、古墳群が破壊された。古墳は密集しているが、ほとんどの主体部が削平されている。

四條畷市の正法寺・讚良寺、寝屋川市高宮廃寺の三寺は山系山麓の南北1km間隔に接近して建立された。

その他、木間池北方遺跡の河川から円面鏡や土器と共に土馬が7体出土した。南野遺跡では「大」の字を墨書した土器が出土した。

城遺跡では通産省との合同地震調査が行われ、生駒断層の跡が発見された。この断層の研究の結果、断層の上の層から奈良時代の須恵器坏が出土し、地震は奈良時代以前におこったと判断できた。その後炭素年代法の分析で $1890 \pm 50$ 年の年代が判明し、地震は弥生時代ごろであったことがわかった。このように地震予知の研究で、地質学と考古学が共同で研究する地震考古学が注目されている。

なお古代から中世にかけても数多くの遺跡が知られている。

## 第2章 調査にいたる経過

南山下遺跡は、四條畷市岡山1丁目・中野本町に所在する。

この遺跡は、忍ヶ丘駅より南約60mの忍ヶ丘丘陵と清滝丘陵との谷間にあり、標高18mに立地する。

遺跡の発見は、昭和51年2月に試掘調査を行った結果、古墳時代の遺物包含層を確認したことによって、忍ヶ丘駅の南側にあった南山下踏切から南側を南山下遺跡、北側を忍ヶ丘駅前遺跡として遺跡発見届を提出した。

昭和51年3月から8月にかけて当時国鉄片町線複線化工事に伴う本格的な第1次発掘調査で、江戸時代の瓦積み井戸や、鎌倉時代の曲物を有する板枠井戸が検出された。この井戸内底から瓦器塊1点が完全な形で出土している。

岡部川周辺は丘陵の谷地形であるためか井戸が多く発見された。中世においては形式が多様であり、井戸形式研究上きわめて重要な遺跡である。この井戸と同じ所に古墳時代中期から後期にかけての旧河川が発見され、それは最大肩幅約10m・深さ60cmの規模であった。旧河川内から土師器の壺・甕・大甕・高壺・壺・ミニチュア壺、須恵器高壺・壺身・壺蓋・器台片の土器が多量に発見された。また、鋸歯文を線刻した滑石製の紡錘車も発見されている。

その後、昭和53年5月から7月にかけて片町線下り線路予定地の発掘調査を実施した結果、第1次調査区の旧河川から東側に続く遺構内から前回同様に多数の古墳時代の土器類が発見された。この土器と共に、長さ11cm・幅3.2cmの縄文時代草創期の有舌尖頭器が1点発見された。

大阪府下の有舌尖頭器の出土地は、発見当時23ヶ所が確認されていた。北は箕面市・高槻市から阪南市まではほとんど大阪全域を覆う。遺跡は大阪低地周辺部の丘陵・段丘面・山間部および1つの遺跡から、1~2点単独で採集されている状態である。

南山下遺跡の有舌尖頭器は、大阪府下では24ヶ所目の発見で、同形式のものが箕面市奥の村の南側河岸段丘（標高100m）に灌漑用として造られた池の岸辺で採集されたものによく似ている。この奥遺跡の有舌尖頭器は現存長10.9cm・最大幅3.4cmで先端部が少し欠損している。

また、旧河川の北側では、地下2.5mの所から縄文時代中期の溝状遺構が見つかり、溝

内から縄文式土器片・石匙が多数出土した。この溝状遺構は幅1.4m・深さ40cmの東西方向に流れるU字溝であった。この溝の中の褐色砂層と呼ばれている土層から、縄文時代中期において西日本に分布する船元式土器が出土した。船元式土器の名称は岡山県の船元遺跡から出土したことによく来る。『岡山県倉敷考古館研究集報第7号』において形式編年されている船元I式土器A類、船元I式土器B類、船元I式土器C類、船元II式土器A類と同形式のものが出土している。

南山下遺跡で出土した船元I式土器は胎土に雲母・角閃石を多量に含んでいる。つまり生駒西麓の粘土を用いて河内で作られた土器であることを示している。これらは、南山下遺跡において今後集中して出土する可能性が出てきている。南山下遺跡周辺において現在までに出土した縄文時代の土器は、中期では、南山下遺跡で船元I式～IV式、砂遺跡では船元II式～IV式、寝屋川市讚良川遺跡で船元I式～IVが出土している。南山下遺跡、讚良川遺跡で船元I式土器が出土しているが、土器の形式から南山下遺跡が先行するものである。後期においては更良岡山遺跡で中期の少量の土器と後期から晩期にかけての土器・石器・石製品が数多く出土している。

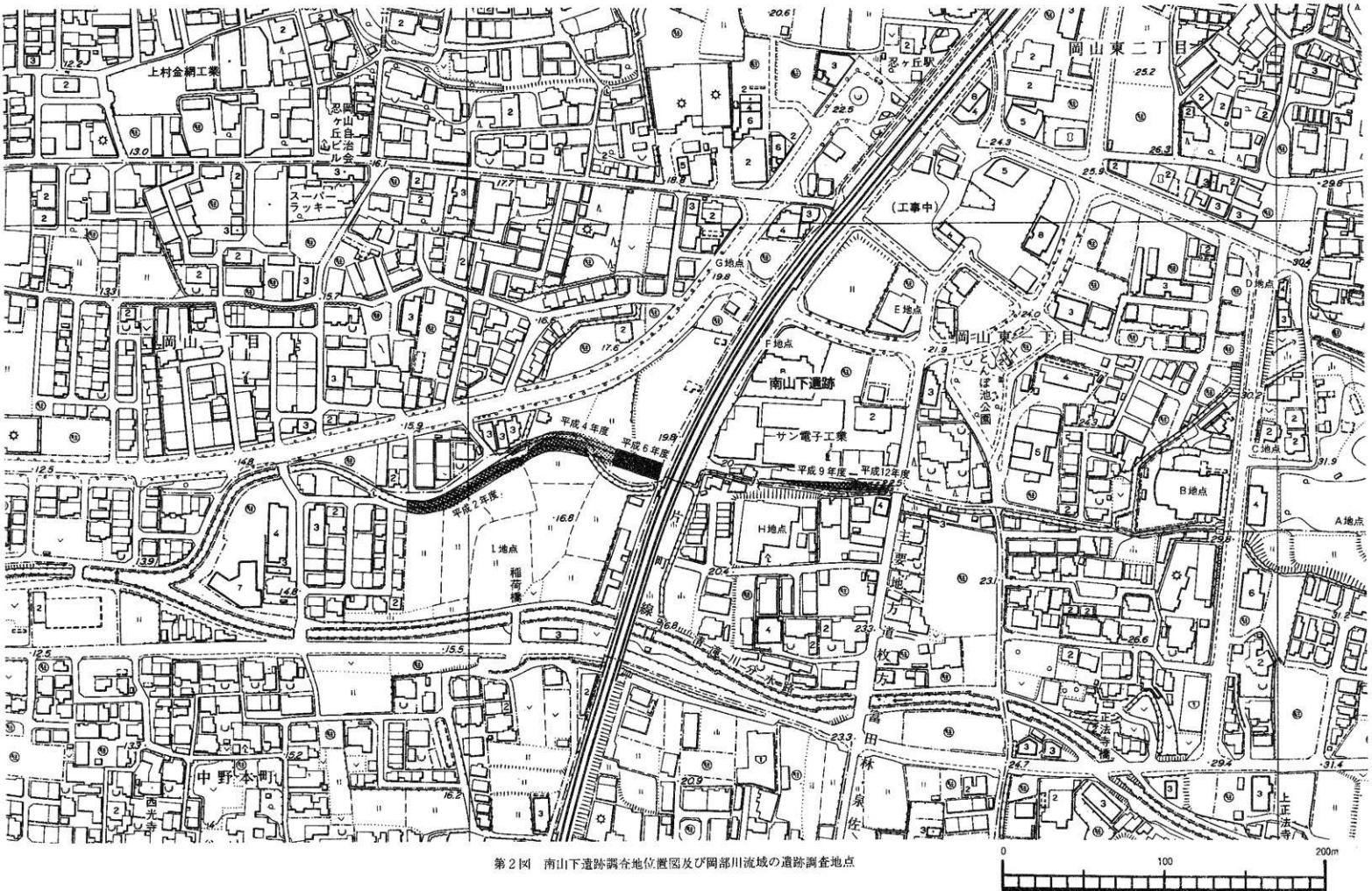
昭和61年7月から9月にかけて忍ヶ丘駅前土地区画整理事業に伴う南山下遺跡を約4000m<sup>2</sup>の範囲で発掘調査した。その結果、古墳時代中期の幅3.5m、深さ40cmの溝を発見した。

その溝の中から、土師器の壺・甕・高壺、須恵器壺身・壺蓋・高壺・甕と共に馬形埴輪が見つかった。この馬形埴輪は、高さ54cm、全長86.5cmで蒙古系の馬をよく表現しており、重厚感と淡い色調、やさしい表情など優品である。馬銅のムラであった四條畷市にふさわしい文化遺産の一つである。

馬形埴輪の出土した溝の周辺5ヶ所の土坑内から朝顔形埴輪・円筒埴輪・蓋形埴輪などが出土している。中でも円筒埴輪片の14点には、舟、×印や不明絵画・記号が描かれていた。

この馬形埴輪は、昭和61年11月19日に日刊新聞朝刊に大きく報道され、四條畷市立歴史民俗資料館で公開された。

また、鎌倉時代から室町時代にかけての井戸を3基発掘調査した。そのうちの1号井戸は、生駒西麓の花崗岩を使って石組をし、下段は大木を削り貫いたものを組み合わせていた。



2号井戸は、上部に石組み、下段には桶を組み合わせたものである。3号井戸は上部に石組み、下段に板材を曲げたものを組み合わせていた。

1号井戸内から鎌倉時代の瓦器碗・土師質皿が出土している。2号井戸と3号井戸は鎌倉時代の溝を切り合って井戸を築造していることから2基の井戸は室町時代にほぼ同時期に作られたものと推察した。

この遺跡周辺では、先に述べた馬形埴輪や人物埴輪・琴弾き埴輪・家形埴輪・水鳥形埴輪・蓋形埴輪などの形象埴輪と一緒に円筒埴輪も出土している。

昭和63年5月から9月にかけて岡部川の北側に隣接する水田地に都市計画道路建設に伴う第9次の南山下遺跡を行った結果、縄文時代の落ち込み状遺構が発見され、遺構内から片町線の発掘調査で発見されたものと同様に縄文時代中期前半の船元式深鉢土器と動物の皮を剥ぐ石匙が出土している。

古墳時代の遺構としては、幅10m前後の旧河川、大溝、掘立柱建物跡などを発見している。特に、大溝内から多量の土器と共に石製品・木製品・種子が出土した。

土器の器種としては、土師器高杯が多く甕・壺・碗・器台などと共に平底の口径12cm、器高10cmの外面体部に格子目タタキ目を施している韓式系土器が出土している。

岡部川周辺は、縄文時代草創期・中期、古墳時代から鎌倉時代にかけての複合遺跡で東西330m、南北300mの範囲が埋蔵文化財包蔵地に周知されている。

### 第3章 岡部川流域の遺跡

古代の岡部川は南北に走る生駒山系から西に流れ出て河内湾あるいは河内湖に注いでいた。その距離は山麓から1.5kmほどである。

現在の二級河川岡部川の上流は、四條畷市岡山東5丁目にある鳥ヶ池の南側から岡山の大谷池と南側の忍ヶ丘ゴルフセンターとの間の谷間を流れ、主要地方道・枚方富田林泉佐野線バイパスの下をくぐり岡山東1丁目の三田工業社宅西側で、四條畷市大字岡山小字別宮から流れる岡部川の支流と合流して西に向かって流れ、主要地方道・枚方富田林泉佐野線道路下で二級河川岡部川が一級河川岡部川と名称を変える。

JR学研都市線の高架下をくぐり中野本町で二級河川清水川と合流して蛇行しながら西に向かって清滝川分水路と合流して岡部橋をこえて中野・藤屋で国道170号（外環状線）を越えて藤屋新町から寝屋川市堀溝で一級河川寝屋川に合流して南下して流れる。

しかし、古代の岡部川は河内湾・河内湖に注いでいたので、現在の外環状線あたりが水際であったといわれている。

岡部川改修工事に伴って発見された南山下遺跡は本文のなかで詳しく報告するが、岡部川流域における発掘調査を四條畷市教育委員会によって行った岡山南遺跡、南山下遺跡などの代表的な発掘調査の概略を述べる。

#### 岡山南遺跡

二級河川岡部川の上流、海拔39mの丘陵上にある忍ヶ丘ゴルフセンター西側のメゾン忍ヶ丘建設予定地（A地点）を昭和58年6月に試掘調査を行った結果、建物予定地の南端9m×10mの範囲に遺構が確認されたため8月から9月にかけて発掘調査した。この調査で古墳時代後期の掘立柱建物跡・溝状遺構と中世の落ち込み状遺構を検出した。

掘立柱建物跡は、二間×二間の柱穴が一棟発見されているが、発掘調査区以外に柱穴跡があるものと考えられ、現在のところ建物の大きさは不明である。この柱穴のすぐ近くから古墳時代の滑石製勾玉が1点出土している。

溝状遺構は幅3mで、遺構内から須恵器・土師器と共に砥石・鉄製品が出土した。

中世の落ち込み状遺構は、上面で直径約4.5m、底面で直径約2.6m、深さ1.3mの不整円形状のもので、出土遺物は遺構肩部から瓦器碗・瓦質羽釜と北宋錢の熙寧元寶(1068~1077)、底部から玉縁瓦・龍泉窯系青磁碗と瀬戸焼の水滴が出土した。

昭和61年7月から9月にかけて三田工業株式会社社宅建設工事に伴って約2500m<sup>2</sup>の発掘調査(B地点)を行った結果、海拔28.5mの丘陵の突端部で古墳時代中期の二間×四間、二間×二間の掘立柱建物跡、平安時代の掘立柱建物跡、一辺1.6m・深さ3.4mの方形板枠井戸1基を検出した。井戸内から黒色土器20点、土師皿21点、綠釉土器1点、木製釣瓶が出土した。この黒色土器の底部外面に「高田宅」2点、「福万宅」1点の墨書き土器が発見された。これは井戸最下層から発見され、井戸祭祀に伴い投入されたものである。

この社宅前の府道・枚方富田林泉佐野線新設バイパス工事に伴い昭和51年に発掘調査(C地点)を行っている。その結果、海拔31mの台地上で古墳時代中期の一辺約8mの竪穴式住居跡内から移動カマドが発見されている。この移動カマドは、韓カマドと呼ばれ3点セット(釜・甑・竈)でごく最近までわが国の生活のなかにいきづいていた。このカマドは、5世紀ごろのもので渡来人との深い関係をもっている。

今まで述べた岡山南遺跡の調査区は岡部川の左岸側であった。対岸の右岸側の発掘調査区(D地点)では、海拔29.5mの台地上で古墳時代中期の逆S字形に屈曲した大溝を確認した。大溝は、全長約50m、幅2~3.5m、深さ1~1.2mであった。溝の断面はU字状をしている。この大溝内から家形埴輪・朝顔形埴輪・円筒埴輪、土師器壺・甕・高壺・手捏ね土器に混じり木製下駄・まな板が出土している。家形埴輪は、高さ42cmの切妻造で棟に5本の堅魚木を乗せた立派な建物である。堅魚木を乗せた家については『古事記』雄略天皇の条に記載されている。また、木製下駄は一本のヒノキ材で作られたもので歯が二脚ついており、鼻緒の穴の位置からみると左足用ものである。現在日本で発見されている下駄としては最古のものである。

### 南山下遺跡

この岡部川の流域では、縄文時代中期、古墳時代中期~中世までの遺跡がある。

第2章「調査にいたる経過」で記述した忍ヶ丘駅前土地区画整理事業に伴う発掘調査(E地点)で、岡山南遺跡と同様に古墳時代中期の遺構内から形象埴輪が多量に見つかっている。しかし、どちらの遺跡にも古墳の形跡は全く無く、これらの埴輪は間

違いなく集落に立てられたものである。これは、古墳以外の埴輪の用途について問題提起するものである。

この、E地点からは、馬形埴輪がほぼ完全な形に復元出来るものが出土した。復元された馬形埴輪は、高さ54cm・全長87cmの胴長で短足の小さい馬で、古墳時代に馬の飼育が四條畷にもたらされた頃に来た蒙古系の馬をよく表現している。5~6世紀にかけての四條畷市あたりは渡来系集団ひきいる馬飼の地であった。

この遺跡も馬飼に関わるものである。馬形埴輪には馬をコントロールするための轡や手綱、鞍や足をかける輪鎧や泥をよけるための障泥が表現されている。現在のサラブレッドとすいぶん様子が違っているが、当時はこのような体形の馬であった。この馬形埴輪は淡い肌色をしている。目の表情が優しく、見つめていると今にも動きだしそうな錯覚におちいるほどの優品である

昭和53年に発掘調査を行った当時国鉄片町線複線化工事に伴う調査(F調査区)と、昭和63年5月の都市計画道路予定地(G調査区)については、第2章「調査にいたる経過」で述べたように縄文時代中期の船元式の土器がまとまって出土している。この南山下遺跡の北側に所在する更良岡山遺跡は他地域と交流を持つ重要な遺跡である。縄文中期の後半に北陸産の大型彫刻石棒が遊び込まれている。後期には新潟県糸魚川市姫川産のヒスイ製石斧をはじめメノウ・正珪岩・碧玉・鉄石英など近畿地方にはない石材も更良岡山遺跡に運ばれて來た。

岡部川左岸側の海拔23mの台地で平成7年3月から4月レジオングリーン四條畷マンション予定地(H地点)から古墳時代と鎌倉時代の溝・掘立柱建物跡・土坑等を検出した。古墳時代の溝は東西方向に整然と掘られていた。それに対し鎌倉時代の溝は南北方向に不規則に掘られていた。鎌倉時代の溝SD-15、SD-16から大和型の瓦器壺と土師質皿が多量に出土している。同じく左岸側で、JR高架橋の西側海拔16mのマンション建設予定地(I地点)で古墳時代と中世から近世にかけての集落跡を確認した。河川状の遺構面では瓦器壺・土師質皿・須恵質すり鉢・青磁片・円筒埴輪・須恵器・土師器と共に馬の歯が12本まとめて出土した。共伴した遺物から中世の馬の歯である。四條畷市内から中世の馬が発見されたのは始めてである。また、最下層から河川状の遺構が検出している。この地が「池堂」と呼ばれていることから池に関わる遺構と考えられる。

## 第4章 調査概要報告書

一級河川岡部川改修工事に伴う文化財発掘調査は、平成元年度の試掘調査から平成12年度の間に6次にわたり、四條畷市教育委員会が発掘調査を実施した。

発掘調査方法は、現在流れている河川を生かして下流域から発掘調査を実施した。発掘調査完了後に河川改修工事を行い隔年次に調査を行ってきた。しかし、平成12年度の河川改修工事予定地である府道枚方富田林泉佐野線と岡部川が交差する地点のすぐ下流域については、平成9年度の発掘調査で盛土を多く確認したことから、平成12年度については立会い調査を実施することにした。第2図南山下遺跡調査位置図に従い発掘調査年度ごとに報告する。

### 平成元年度（1989－1）（第2図・図版3－4）

大阪府枚方土木事務所長から平成元年5月8日付枚土第80号で四條畷市中野本町6-2他3筆内の試掘調査依頼書を受け取り、平成元年8月8日から8月10日まで四條畷市中野本町・岡部川左岸側の水田地に5ヵ所試掘調査を実施した。

各トレンチの概要は以下のとおりである。

岡部川本流と清水川が合流する地点の左岸側水田で、岡部川の最も曲線になっている場所である X=-1050・Y=-760内に第1トレンチ（試掘穴）幅1.2m×長さ1.5mを設定した。第1トレンチ南壁断面層位は、第1層耕土24cm、第2層床土4～6cm、第3層淡灰茶褐色砂質土8～10cm、第4層灰茶褐色砂質土12～16cm、第5層白灰茶褐色砂質土10～20cm、第6層淡茶褐色砂質土28～34cm、第7層茶褐色砂質土22～32cmの層序で耕土から約128cmで地山に達した。第4層から第7層が遺物を含む層（遺物包含層）で瓦器碗および須恵器片・土師器片が出土した。

X=-1050・Y=-750内に第2トレンチ幅1.3m×長さ1.3mを設定した。第2トレンチ南壁断面層位は、第1層耕土22～24cm、第2層床土8～9cm、第3層灰茶褐色砂質土20cm、第4層淡茶褐色砂質土10～11cm、第5層茶褐色砂質土14～27cm、第6層黄茶褐色粘質土16cm、第7層灰茶褐色砂質土20cm、第8層青灰色粘質土15～21cmの層序で耕土から約131cmで地山に達した。第5層に落ち込み状遺構を検出し、同じ層位内から須恵器が出土した。土器編年からみて古墳時代のものである。

X=-1030・Y=-710内に第3トレンチ幅1.5m×長さ1.8mを設定した。第1層耕土20cm、第2層床土6~8cm、第3層灰茶褐色砂質土16~26cm、第4層淡灰茶褐色砂層14~30cm、第4a層灰色砂質土26cm、第5層灰黄色粘質土17~62cmの層序で耕土から127cmまで掘り下げたが地山に達せず、湧き水のため危険であるので手掘り掘削を中止した。第4a層が土坑遺構である。

X=-1020・Y=-680内に第4トレンチ幅1m×長さ1.2mを設定した。西側断面層位は、第1層耕土20cm、第2層床土6~8cm、第3層淡灰茶褐色砂質土4~8cm、第4層灰茶褐色砂質土14~20cm、第5層暗茶褐色砂質土14~20cm、第6層暗茶褐色粘質土14~22cm、第7層黄茶褐色粘質土26~32cm、第8層灰黄色粘質土4~18cmの層序で耕土から約130cmまで掘り下げたが、湧き水のため掘削を中止した。

X=-1020・Y=-670内に第5トレンチを幅1.2m×長さ1.4m設定した。南側断面層位は、第1層耕土24cm、第2層床土6cm、第3層茶褐色砂質土12~18cm、第4層淡茶褐色砂質土18~22cm、第5層灰茶褐色砂質土24~36cm、第6層暗灰茶褐色砂質土24~30cm、第7層灰黄茶褐色砂質土24~30cmで耕土から約130cmを掘り下げたが、第3トレンチ・第4トレンチ同様に湧き水のため掘り下げを中止した。5ヶ所のトレンチで第1・第2トレンチのみ地山面を検出したが、第3~第5トレンチは現在の水田面が高くその関係から湧水のため地山を検出することはできなかった。

以上の5ヶ所の試掘穴から遺構および出土遺物がそれぞれ確認された。

試掘調査報告書によって平成元年10月5日付枚土第519号で遺跡発見の通知を文化庁長官あてに提出された。

遺跡の発見によって大阪府枚方土木事務所と大阪府教育委員会・四條畷市教育委員会が再三にわたって協議を実施した結果、岡部川改修工事にさきがけて河川予定部分及び管理道路部分の全面発掘調査を四條畷市教育委員会が行うこととなった。

#### 平成2年度（1990-1）（第2-3図・図版5-7）

平成2年度の発掘調査は、平成2年8月3日付大阪府枚方土木事務所長より、文化財発掘通知書の提出が行われた。

発掘調査地は、平成元年8月に試掘調査を行った四條畷市岡山1丁目25番地他の490m<sup>2</sup>の水田が発掘調査の対象地であった。発掘調査によって掘削した土砂を隣接地の水田

地を借地して仮置きした。発掘調査範囲内の東側部分から調査し、掘削土を中央部で借地した水田に仮置きを行い、その後西端の水田から東向きに機械掘削を行い全調査区の発掘調査を行った。この調査区は、大阪府枚方土木事務所の平面計画図面を参照に部分座標を採用した。

## 層序

東側調査区の南側断面の基本層序は上から第1層耕土、第2層灰褐色砂質土、第3層床土、第4層灰白色シルト層、第5層灰褐色砂質土（黄色の粘土ブロック混入）、第6層明褐色砂層となる。各層は水平になっているが、部分的に東から西に少し傾斜している層もある。

遺構のベース面は第5層直上において、試掘調査でも確認した犁溝を検出した。

中央調査区の南側断面の基本層序は上から第1層耕土、第2層床土、第3層黄褐色砂質層（山砂に似ている）、第4層灰褐色砂質土（黒・黄色粘土ブロック混入）、第3層と第4層の間に灰色砂質土がブロック状に堆積しているヶ所が認められる。

西側調査区の南側断面の基本層序は上から第1層耕土、第2層床土、第3層灰褐色砂質土、第4層暗灰色粘質土、第5層灰色シルト層（暗灰色粘土橙色シルト混入）第6層橙色粗砂層、第7層紫灰色粘質土。

今回の発掘調査区西端の基本層序は、第1層耕土、第2層床土、第3層灰褐色砂質土、第4層明褐色砂質土（灰色ブロック混入）で幅4m・深さ43cmの落ち込み遺構が検出している。

発掘調査区全体の南側断面120mを総合的な基本層序は以下のようである。

第1層 耕土として使用。厚さ約20cm、水田面の高さ TP+16.30m。

第2層 灰褐色砂質土。調査区西側の遺物包含層（灰褐色砂質土）約10cmを埋土として40mの範囲に整地している。土師質小皿、染付けの陶磁器、陶器などが出土している。

第3層 床土。厚さ約20cmで、ほぼ東西水平に床土が置かれている。

第4層 橙色砂質土。調査区東から30~38.8mの間に落ち込み状に認められる。東から西に少し傾斜を持つ堆積土。厚さ約36cm。

第5層 灰色砂礫層。第4層で確認した落ち込み状の肩部の堆積土層である。

第6層 灰白色シルト層。調査区東から30mの位置まで厚さ約15~20cmで東から西

へ少し傾斜をしている状況で確認した。25mの位置で犁溝2条を確認した。

東側犁溝は幅36cm・深さ14cm、西側犁溝は幅36cm・深さ16cmが中心線で78cm間隔に南北方向に検出した。

第7層 灰褐色砂質土。(黄色粘土ブロック混入) 調査区全域に認められる。厚さ約25～35cmで、第4層同様に36mまで確認した。

第8層 黄褐色砂質土。調査区東から50～79mの範囲に厚さ40～60cmに堆積している。

第9層 灰色砂質土。ブロック状に厚さ約20cm確認される。

第10層 灰褐色砂質土(黒・黄色粘土ブロック混入)。調査区の東から43m～77mの間の34mの範囲に厚さ約40～70cmに堆積している。

この土層から滑石製石鍋底部の破片が出土している。

この堆積土が確認される地域は、この層位下で地山になっている。

第11層 明褐色砂層。調査区東端から24.7m地点まで厚さ約20cm堆積している。この堆積土が確認される地域はこの層位下で地山を確認している。

第12層 灰褐色砂質土(ブロック混入)。調査区東端から43m地点で耕土面から攪乱を受けている場所で長さ90cm、厚さ20cmで確認した。

第13層 暗褐色砂質土。第12層を確認した場所の下層の土層で第12層同様に長さ70cm、厚さ15cmを確認した。

第14層 黄褐色砂質土。調査区東から80～83mの場所で厚さ10～40cmを確認した。  
土層の東側に少し傾斜している。

第15層 灰色砂質土(暗灰色粘質土・橙色砂質土混入)。調査区東から88.5m～103mまで確認したが、103m～110mまでの7m分が調査中に土層が崩落したため灰色砂質土が西にあと何メートル続いていたか不明である。

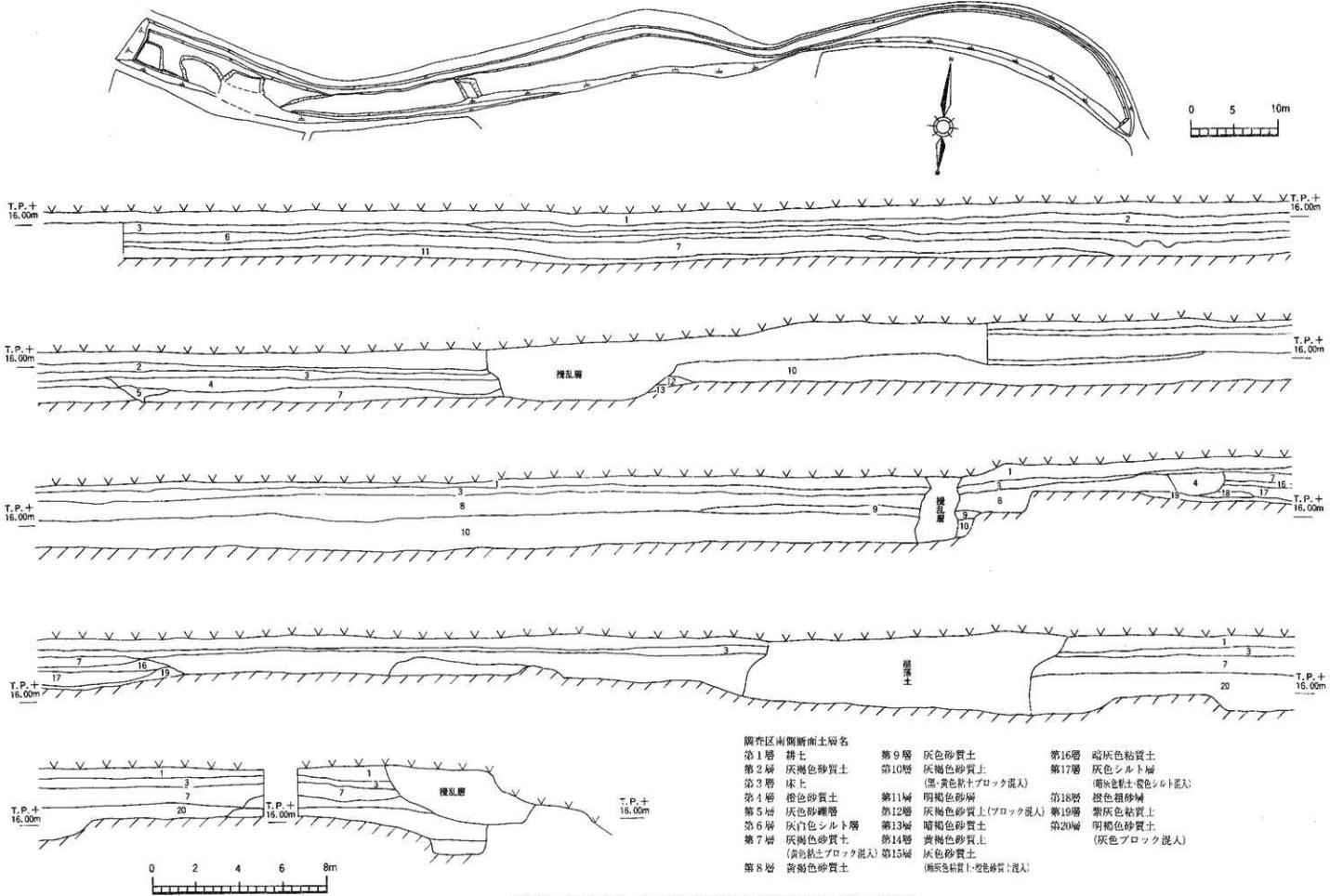
この土層から、奈良～平安時代の壺片出土している。

第16層 暗灰色粘質土。調査区東から84.6～88.5m約4mの範囲に厚さ10cmの堆積土を確認した。

第17層 灰色シルト層(暗灰色粘土・橙色シルト混入)。第16層と同じ場所で、厚さ20～30cmの堆積土を確認した。

第18層 橙色粗砂層。第17層の下層でブロック状に、厚さ12cmの堆積土を確認した。

第19層 紫灰色粘質土。第17層の下層で、厚さ10cm前後の堆積土である。この土層の下



第3図 南山下遺跡 平成2年度(1990-1)遺構配図及び断面実測図

層で地山を確認した。

第20層 明褐色砂質土（灰色ブロック混入）。調査区西端から東に11mの範囲に厚さ85cmの土坑の堆積土層である。

### 溝

溝1は、調査区 X=-139,675・Y=-32,534地点で検出した。検出段階で溝1の北側で溝2とした遺構は掘り下げ完了時に同一溝であったため溝1として処理した。溝1は、南北方向に向かって掘られたもので、検出肩部の延長3m、幅2.6m、深さ0.8mで断面は皿状を呈している。溝肩は、西寄りで T·P+16.1m、東寄りは T·P+16mで溝底の比高差からみて、南から北へ向かって流れている溝である。

溝内からの出土遺物としては、瓦器碗・土師質皿が出土している。

溝3は、調査区 X=-139,674・Y=-32,528地点で検出した。しかし、この溝状遺構検出後に断面崩落したため一部しか完掘できなかった。溝3は南北方向に向かって掘られたもので、検出肩部の幅は4.7m、深さ0.51mで断面は皿状を呈している。溝肩は、西寄りで T·P+15.35m、東寄りは T·P+15.37mで溝底の比高差からみて、溝1同様に南から北に向かって流れている溝である。

### 落ち込み状遺構

落ち込み状遺構1は、調査区 X=-139,673、Y=-32,520地点で検出した。規模は東西6m、南北は調査範囲の2.4m、深さ0.78mで断面は皿状を呈している。落ち込み状遺構の東側肩部は T·P+16.43m、西側肩部は溝3および断面崩落によって不明である。

落ち込み状遺構2は、調査区 X=-139,665、Y=-32,503地点で検出した。東向きに2段に落ち込んでいる。堆積土層は、基本層序の第14層 黄褐色砂質土、第15層 灰褐色砂質土であった。1段目の西側肩部は大きな木の根によって攪乱されていたため正確な高さは不明であるが周辺の状況から見て、T·P+16.65m前後と考えられる。また2段目の落ち込みの肩部は、T·P+16.47mである。落ち込みの底部の高さは T·P+15.46mで肩部からの深さは約1mであった。

### 平成4年度（1992-1）（第2・4-7図・図版8-12）

平成4年度の発掘調査は、平成4年11月18日付で大阪府枚方土木事務所と四條畷市との発掘調査委託契約書に基づき、岡部川右岸側の約70m区間の437m<sup>3</sup>の範囲で平成4年12

月7日から平成5年2月5日まで発掘調査を行った。

この調査区には岡山東2丁目から岡山2丁目・1丁目に流れる二級河川清水川の合流部分と、現岡部川の湾曲する部分を含むことから、平成4年度は枚方土木事務所から本工事と四條畷市教育委員会の文化財発掘調査を同時発注を行い、本工事において矢板打ちを完了した段階で発掘調査を行った。

機械掘削を12月7日から12日まで行いその後人力掘削による調査を開始した。機械掘削後は調査区全域が平坦な面でなく、西側の上層部分のほとんどは現在の岡部川によつて搅乱を受けている状況であったが、東側は完全に上層の遺構面と遺物包含層などが残っていた。

## 層序

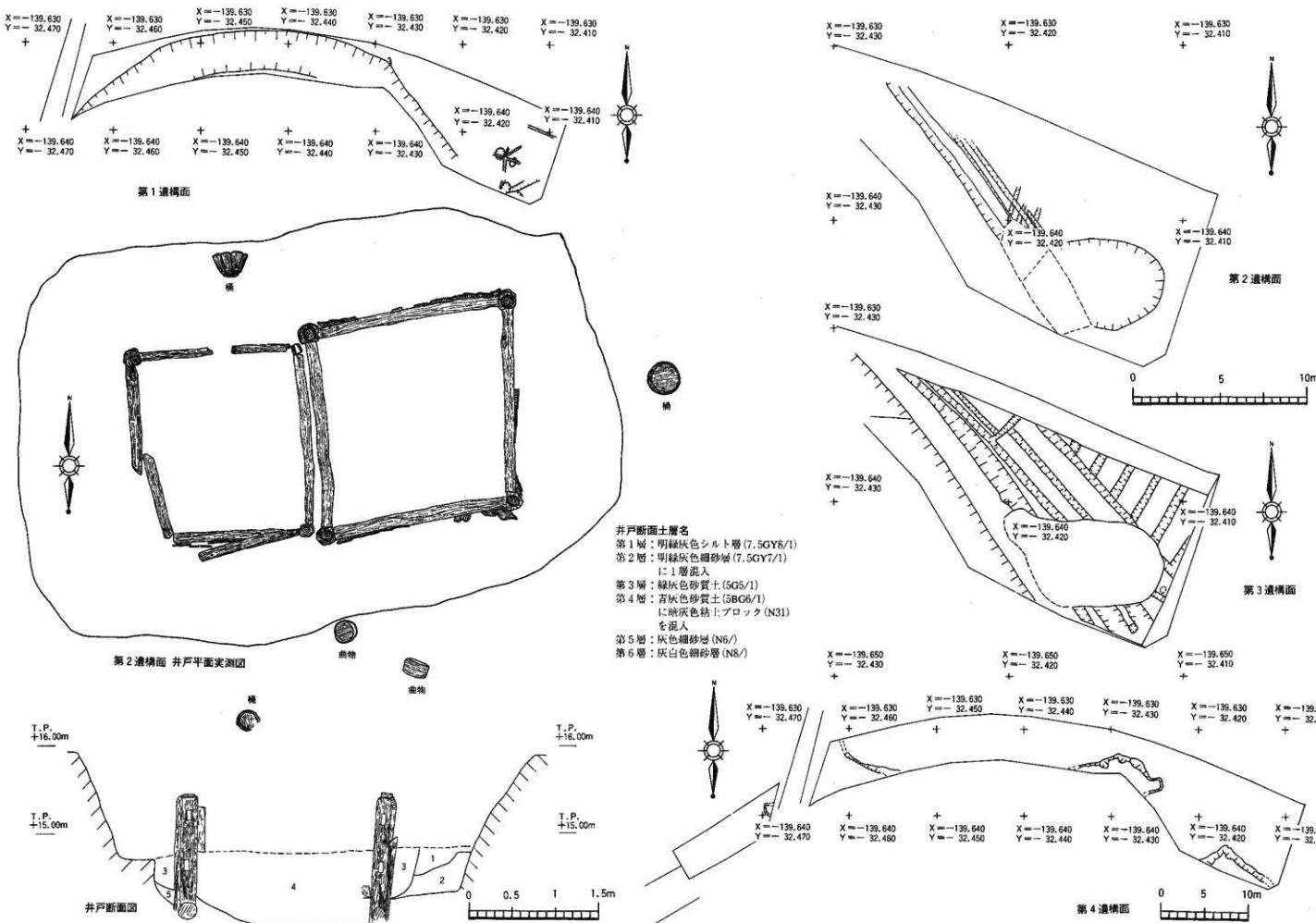
断面図は調査区の北側を図版に掲載した通りである。しかし  $Y=-32,435 \sim -32,480$  地域まで搅乱及び河川のため基本的な層位を確認することができなかつたので、調査区の東側端にあたる  $Y=-32,410$  ラインの断面を基本層序とする。

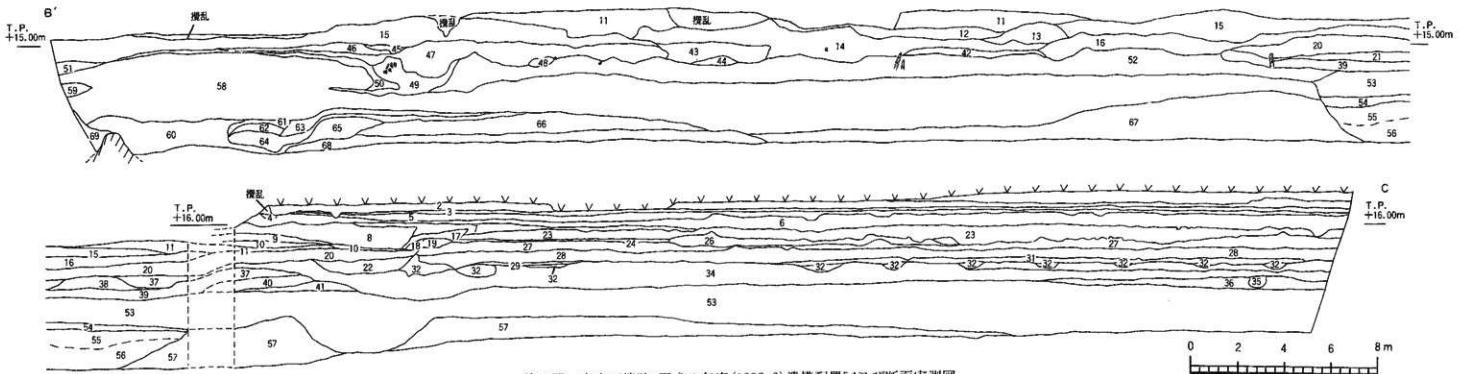
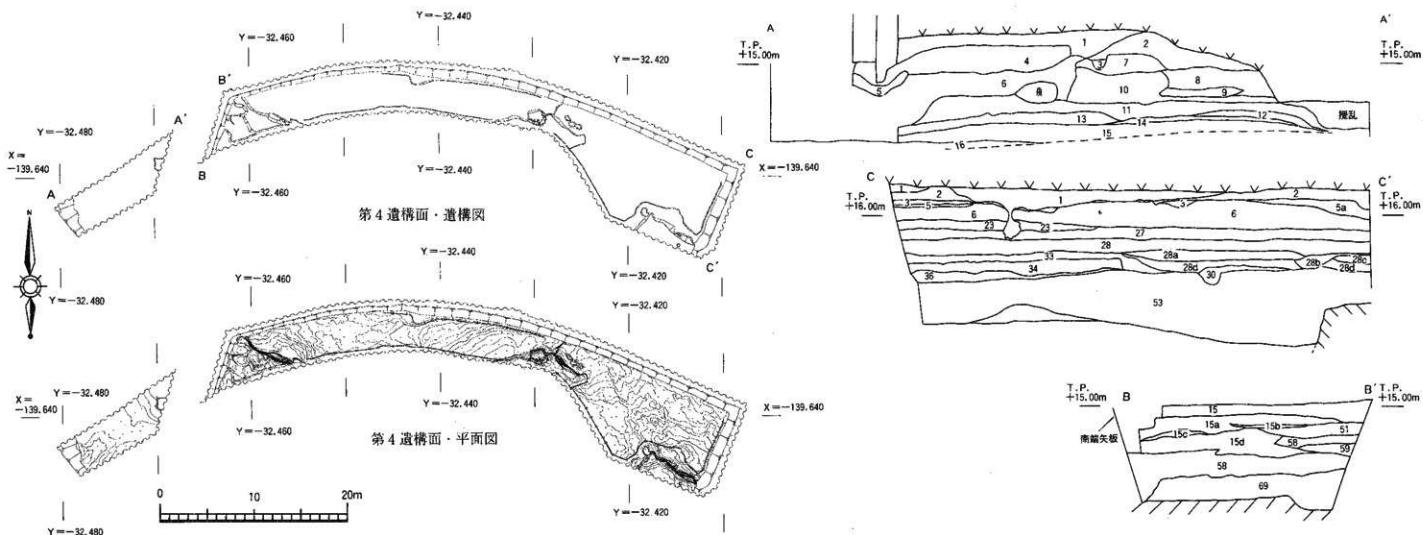
第1層盛土、第2層耕土、第3層床土、第5層橙色砂質土(5YR6/6)、ブロック状に第5a層灰色砂質土(5Y5/1)、第6層にぶい橙色砂質土(5YR6/4)、ブロック状に第23層灰黄色細砂層(2.5Y7/2)、第27層灰色砂質土(7.5Y5/1)、第28層灰色砂質土(7.5Y4/1)、以下ブロック状に第28a層オリーブ色砂質土(5Y5/4)、第28b層灰白色細砂層(7.5Y8/1)、第28c層灰白色シルト層(N7/)、第28d層灰白色細砂層(10Y7/1)、第28e層灰白色細砂層、第33層灰白色シルト層(7.5Y7/1)、第34層灰白色細砂層(10Y7/1)、第36層灰白色細砂層(5Y8/2)、最下層に第53層灰白色砂礫層(7.5Y8/1)で地山層になっている。今回の発掘調査で大半の出土遺物は、この第53層からの土器である。

## 第1遺構面

調査区の東端から西に11m付近の  $X=-139,640 \cdot Y=-32,420 \sim -139,650 \cdot Y=-32,420$  地区までの所で、近世の溝状遺構を5本・土坑を3基検出した。

$X=-139,630 \cdot Y=-32,430$  地点の西側で現在の岡部川の川底面を検出し、その堆積土中から須恵器片や陶磁器片・砥石などが出土した。この須恵器片をみる限りでは、摩滅が著しい事から、上流域から流されてきたものであることがわかる。





第5図 南山下遺跡 平成4年度(1992-2)遺構配置図及び断面実測図

## 第5図の土層名

A-A' 断面

層	層名
1	にぶい褐色砂質土(7.5YR5/3)
2	浅黄色砂質土(2.5Y7/3)
3	灰白色粗砂層(7.5YR8/1)
4	浅黄色砂質土(2.5Y7/3)
5	灰黄色砂質土(2.5Y7/2)
6	灰褐色砂礫層(7.5YR5/2)
7	浅黄色砂質土(2.5Y7/4)
8	灰白色粗砂層(10YR8/2)疊混り
9	灰白色細砂層(7.5Y8/1)
10	明青灰色粘土層(10BG7/1)に7層混入
11	灰白色砂礫層(N8/)
12	灰白色細砂層(7.5Y8/1)
13	灰白色細砂層(7.5YR8/1)
14	明青灰色粘土層(5B7/1)
15	明青灰色砂礫層(5B7/1)
16	明青灰色粗砂層(10BG7/1)

B-B' - C-C' 断面

層	層名
26	黄灰色砂質土(2.5Y5/1)
27	灰色砂質土(7.5Y5/1)
28	灰色砂質土(7.5Y4/1)
28a	オリーブ色砂質土(5Y5/4)
28b	灰白色細砂層(7.5Y8/1)
28c	灰白色シルト層(N7/)
28d	灰白色細砂層(10Y7/1)
29	灰色砂質土(10Y6/1)
30	灰白色細砂層(5Y8/1)
31	灰白色シルト層(5Y8/1)に明青白色粘土(5B7/1)混入
32	灰白色細砂層(7.5Y8/1)疊混り
33	灰白色シルト層(7.5Y7/1)
34	灰白色やや細砂層(10Y7/1)
35	明青灰色シルト層(5B7/1)
36	灰白色細砂層(5Y8/2)
37	灰白色シルト層(10Y8/1)
38	青灰色粘土質土(10BG6/1)
39	灰色粘質土(N4/)と灰白色細砂層(2.5GY8/1)混合層
40	明青灰色細砂層(5B7/1)
41	暗青灰色粘質土(5B4/1)
42	灰色粘土層(N5/)
43	青灰色シルト層(5B6/1)
44	灰白色細砂層(N7/)
45	灰白色砂質土(N7/)
46	灰白色粗砂層(2.5Y7/1)
47	灰白色シルト層(7.5Y8/2)
48	青灰色粘質土ブロック(5B5/1)
49	明青灰色シルト層(10BG7/1)
50	暗緑灰色砂質土(5G3/1)
51	灰黃褐色砂礫層(10YR5/1)
52	灰白色砂礫層(N8/)
53	灰白色砂礫層(7.5Y8/1)
54	暗青灰色砂質土(5BG4/1)
55	灰色細砂層(10Y5/1)
56	灰白色礫層
57	灰色砂礫層
58	灰白色砂礫層(10YR8/1)と灰白色細砂層(2.5Y8/1)と、 橙色粗砂層(7.5YR6/8)の混合層
59	明綠灰色砂質土(10GY8/1)
60	灰白色細砂層(N8/)に灰色砂質土ブロック 混入(N4/)
61	灰白色細砂層(7.5Y8/1)
62	明綠灰色シルト層(10GY7/1)疊混り
63	灰色粘質土(N5/)
64	明綠灰色シルト層(10GY7/1)
65	灰白色シルト層(N7/)
66	灰白色細砂層(N8/)
67	灰色粘質土(N4/)
68	灰白色やや細砂層(N8/)に灰色砂質土ブロック 混入(N4/)
69	青灰色礫層(5B5/1)

B-B' - C-C' 断面

層	層名
1	盛土
2	耕土
3	床土
4	灰赤色砂質土(2.5YR6/2)
5	橙色砂質土(5YR6/6)
5a	灰色砂質土(5Y5/1)
6	にぶい橙色砂質土(5YR6/4)
7	にぶい褐色砂質土(7.5YR6/3)
8	明褐色粘土層(7.5YR5/6)
9	褐灰色シルト層(7.5YR6/1)
10	明褐色シルト層(7.5YR7/2)
11	灰褐色砂質土(7.5YR5/2)
12	にぶい黄色砂質土(2.5Y6/3)
13	淡黄色シルト層(5Y8/3)
14	青灰色砂質土層(10BG5/1)
15	黄褐色シルト層(10YR8/8)
15a	灰白色シルト層(5GY8/1)
15b	明青灰色粘土層(5B7/1)
15c	灰白色細砂層(N8/)
15d	灰白色細砂層(5Y8/1)
16	灰白色シルト層(7.5Y8/2)
17	灰白色砂礫層(10Y8/1)
18	灰白色細砂層(10YR8/2)
19	にぶい黄褐色砂質土(10YR6/3)
20	灰色シルト疊混り層(10Y6/1)
21	灰白色シルト層(10Y8/2)
22	灰白色細砂層(7.5Y8/2)
23	灰黄色細砂層(2.5Y7/2)
24	灰褐色砂質土(5YR5/2)
25	灰色砂質土(10Y5/1)

## 第2遺構面

東側地区において第1遺構面下約40cmの所で確認する。遺構としては、犁溝7本と井戸2基を検出した。

井戸は、長径約14m・短径約10m・深さ約2.5mの平面橢円形の土坑（掘り方）を掘り、その中に井戸の施設を設けていた。当初井戸は1間×2間のものであると考えていたが、井戸施設の細部を観察すると制作方法に違いが見られるところから2基の井戸であると考えるに至った。しかし、平面観察では掘り方での新旧関係は判明しなかった。

### 井戸1

X=-139,642・Y=-32,413地点で、直径約25cm・長さ約2m（残存）の木を柱として、一辺約2.5mの四角形を組み、4段の横桟木を施している。柱はそれぞれ隣の柱と向かい合う面のみを平坦に加工し、外側の部分は自然木のままであった。横桟木は両端を凸状に加工し、柱のほぞ穴にはめ込んでいる。その後、四面に幅約15~20cmの縦板を隙間無く立て並べている。それぞれの柱の上部は凸状に加工されていたことから、上部に他の施設があったものと考えられる。また、木組みの際の目印に利用したと思われる文字及び記号が柱に墨書きされていた。

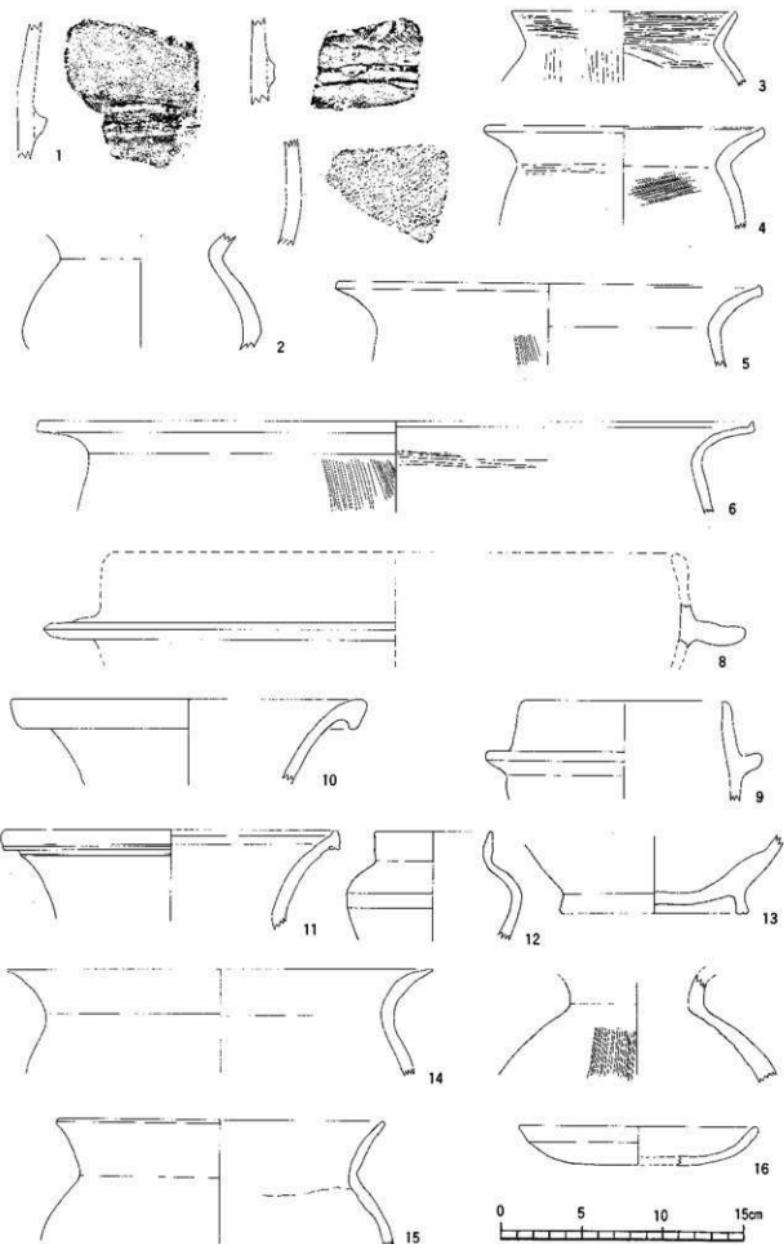
### 井戸2

X=-139,643・Y=-32,415地点で、直径約15cm・長さ約1.25m（残存）の木を柱として、一辺約2mの四角形を組み、3段の横桟木を施している。柱はそれぞれ隣の柱と向かい合う面のみを平坦に加工し、外側の部分は自然木のままであった。横桟木は両端を凸状に加工し、柱のほぞ穴にはめ込んでいるが、井戸1の加工に比べて粗雑な作りである。周囲には井戸1と同じく縦板を立て並べている。それぞれの柱の上部は凸状に加工されていたことから、上部に他の施設があったものと考えられる。柱に井戸1のように墨書きは見られなかった。

また、井戸の周囲からは、桶3点・曲物2点が出土している。井戸の周囲に土坑を掘り埋納した状態で出土していることから、井戸に関連した祭祀的な意味を持つ行為で用いられたものであると考える。

## 第3遺構面

東側地区において第2遺構面下約80cmで確認する。遺構としては、溝状遺構を8本検出した。これらは等間隔で南北方向に4本、またそれらを途中で削平するように等間隔



第6図 出土遺物

で南北方向に4本検出した。時期的には中世のものと思われる。

#### 第4 遺構面

この面が今回の調査での最終面で、調査地区全域に広がる遺構面である。遺構の性格としては、ほとんどが調査地区外に広がっており、一部が調査地区内検出されたものであるため不明な点が多いのであるが、堆積土や平面形態からほぼ南北方向に流れる河川の一部であると考えられる。この河川からは、上層で土師器・須恵器、下層からサヌカイト・繩文土器片が出土しており、現在の岡部川や清水川ができる以前の流路であったと考える。

#### 出土遺物

X= -139, 650・Y= -32, 420地区内の灰白色砂礫層から古墳時代から中世の土器が出土している。円筒埴輪（第6図-1・図版12-1）で胎土は密。0.1~0.2cmの白色砂粒を多く含み、焼成はやや粗で器表は灰色、内面は淡褐色を呈する。須恵器壺（第6図-2・図版12-2）、土師器壺（第6図-3~6・図版12-3~6）、いずれも頸部から「く」の字状に外反する口縁をもつ。3は、口径13.6cm、の口縁部で肩部に縱方向の刷毛目調整、内面及び口縁外面にナデ調整が施されている。

6は、口径43.8cmの「く」の字状に外反する口縁部で口縁端部を内側上方に突出する。口縁部内外面ナデ、体部外面ハケメを施す。

韓式系土器（第6図-7・図版12-7）は、胴部の破片で外面に繩席文を施す。

羽釜（第6図-8~9・図版12-8~9）で、8は口縁端部欠損しているため大きさは不明であるが鋤部からの計測から大型の瓦質羽釜である。9は、口径12.4cmの土師質羽釜で鋤部下に煤が付着している。

X= -139, 640・Y= -32, 440~32, 445地区内の灰白色砂礫層から弥生時代～奈良時代にかけての土器・瓦が出土している。

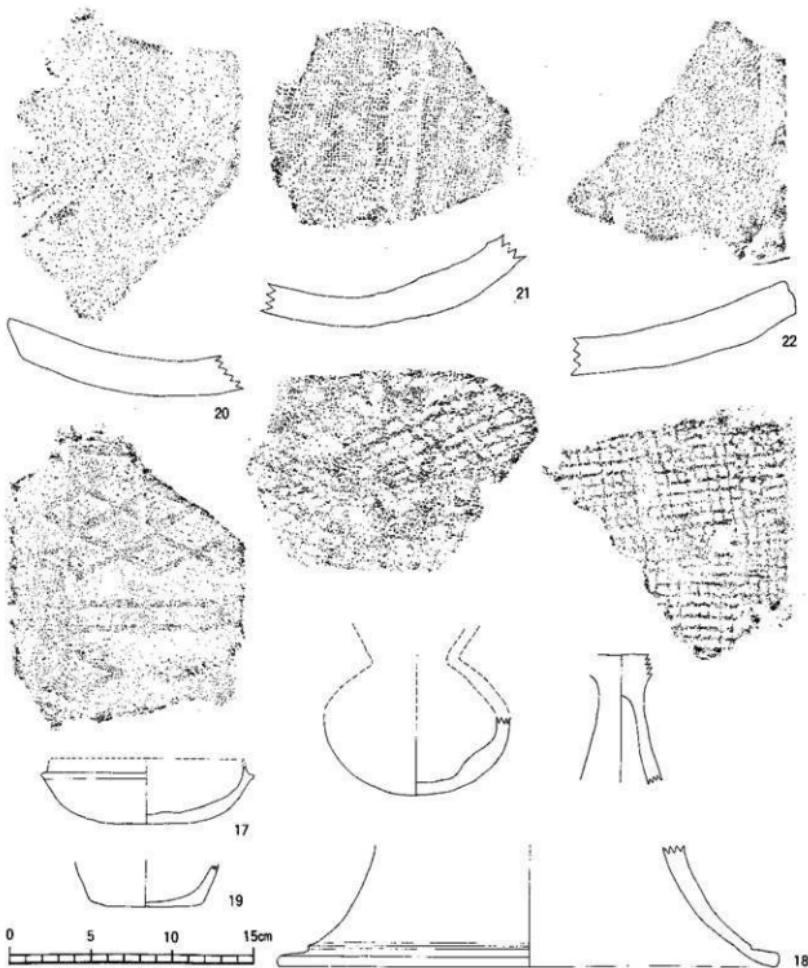
弥生土器（第6図-10）は、広口壺で口径21.6cm。口縁部斜めに外反し、口縁端面は下方に拡張する。

須恵器壺（第6図-11）は、口径20.4cm。口縁部は外弯気味に外傾し、外上方にのび端部近くでやや下外方に短く下がり、更に上外方にのび内傾して端部は丸くおわる。

須恵器短頸壺（第6図-12）は、口径7.2cm。頸部の短い肩の張る底部丸底の短頸壺と考えられる。成形はマキアゲ、ミズビキ手法で体部の調整には回転ナデ調整が施されて

いる。

須恵器壺（第6図-13）は、底部径11.5cm。底部は凹凸があり、底部と体部の境は、強い回転ナデ調整のため弱い「く」の字型を成す。手法は、マキアゲ・ミズビキ成形。



土師器甕（第6図-14～15）14は、口径26cm。長胴形の甕と考えられる。口縁部は頸部から大きく「く」の字状に外反する。15は、口径19.6cm。中形の甕である。口縁部は緩やかに外反する。

土師質皿（第6図-16）は、口径14.6cm、器高2.4cm。底部より内弯気味に外上方にのびる。

X=-139,640・Y=-32,460地区内の灰白色砂礫層から古墳時代後期の須恵器坏身と土師器高坏脚部が出土している。

坏身（第7図-17・図版12-17）は、現存高3.6cm、推定口径11.8cm。口縁端部のたちあがり部分は欠損している。受部は、水平にのび端部丸い。底体部は深く丸みをもつ。

X=-139,640・Y=-32,430地区内の灰白色砂礫層から古墳時代の須恵器・器台（第7図-18・図版12-18）、韓式系土器・平底鉢（第7図-19・図版12-19）奈良時代の平瓦（第7図-20～22・図版12-20～22）が出土している。

#### 平成6年度（1994-1）（第2図・図版13-15）

平成6年度の発掘調査は、平成6年11月28日付枚土第454号で大阪府枚方土木事務所長より埋蔵文化財発掘調査依頼をうけた。調査は、四條畷市岡山1丁目58-12の畠地が岡部川改修工事の予定地に計画され平成7年1月から3月まで遺跡に影響をおよぼす284m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。

調査地は平成4年度で実施した調査区の上流に位置する畠地で、一部植木があることから、調査前に植木の移植を行い調査範囲の現状測量を実施した。その後、畠地の盛土および耕作土をバックホーによる掘削を行い、その下はベルトコンベアによる人力掘削を行った。

調査地中央北側近くで中世の埋め甕（図版15）1点が完形品で置かれた状況で出土している。その下層の灰白色砂層及び灰褐色砂層・灰褐色砂礫層において古墳時代の須恵器・土師器、鎌倉時代の瓦器碗・土師質小皿・須恵質練鉢・瓦等の遺物が出土している。

これらの土器は、河川によって流されたと思われる遺物である。しかし、各土器片が流されたことによるローリングをあまり受けておらず、岡部川改修予定地の右岸または左岸に古墳時代及び中世の遺構が残っている可能性がある。

調査区の東側では溝及び土坑が検出された。

平成9年度（1997-1）（第2図・図版16-18）

平成6年度までの発掘調査区はJR学研都市線の高架橋より下流部であった。高架橋より上流側については、南山下遺跡の周知遺跡範囲内に入っているが岡部川左岸側は台地の斜面部にあたっていたため遺跡の存在を確認するため、平成7年11月22日岡部川左岸側の試掘調査を実施した。その結果一部に遺物包含層を確認したが、後世に南側の台地から崩れた土であることから、左岸側については改修工事の際立会い調査を行った。

岡部川右岸側は、大宮電機四条畷工場の焼却炉施設であった延長約60mの範囲で、調査区内には部分的に約2mの盛土がなされていた。

第1層旧耕土及び第2層床土除去後、精査を行った結果東西方向の犁溝を検出した。この検出面で旧建物の基礎による搅乱が認められる。

第3層黄褐色砂質土内から縄文時代の石鏸と中世の瓦器碗・土師質皿が出土した。

平成12年度（2000-1）（第2図・図版19）

平成9年度で実施した調査区の東側、岡部川の上流の府道・枚方富田林泉佐野線までが一級河川岡部川である。今回の工事予定は延長15mを平成13年2月から立会い調査を実施した。現況表土から約2.5mの盛土があり、下層面で旧耕土と青灰色砂質土を確認した。しかし、この層からの出土土器は発見されなかった。

## 報告書抄録

フリガナ	ミナミサゲイセキハツツチョウサガイヨウホウコクショ
書名	南山下遺跡発掘調査概要報告書
シリーズ名	
著者名	野島 稔・村上 始
編集機関	四條畷市教育委員会
所在地	〒575-8501 大阪府四條畷市中野本町1番1号 TEL 072-877-2121
発行日	2001(平成13年)3月15日

所収遺跡	所在地	コード 市町村	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
南山下 遺跡	四條畷市 岡山・ 中野本町	272299	北緯 34° 26' 20" 東経 135° 38' 45"	平成元年8月8日 ～8月10日 平成2年7月13日 ～8月16日 平成4年12月7日 ～平成5年2月5日 平成7年1月31日 ～3月15日 平成9年12月22日 ～平成10年1月9日 平成13年2月1日 ～3月10日	1,400m <sup>2</sup>	岡部川 改修工事

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南山下遺跡	集落	縄文時代 古墳時代 鎌倉時代 江戸時代	落ち込み 旧河川 溝 井戸	土器 石器 瓦	

図 版

図版1 岡部川改修工事完成写真



図版2 岡部川改修工事完成写真



図版3 南山下遺跡 平成元年度試掘調査区全景・試掘穴(トレンチ)スナップ



図版 4 試掘調査スナップ



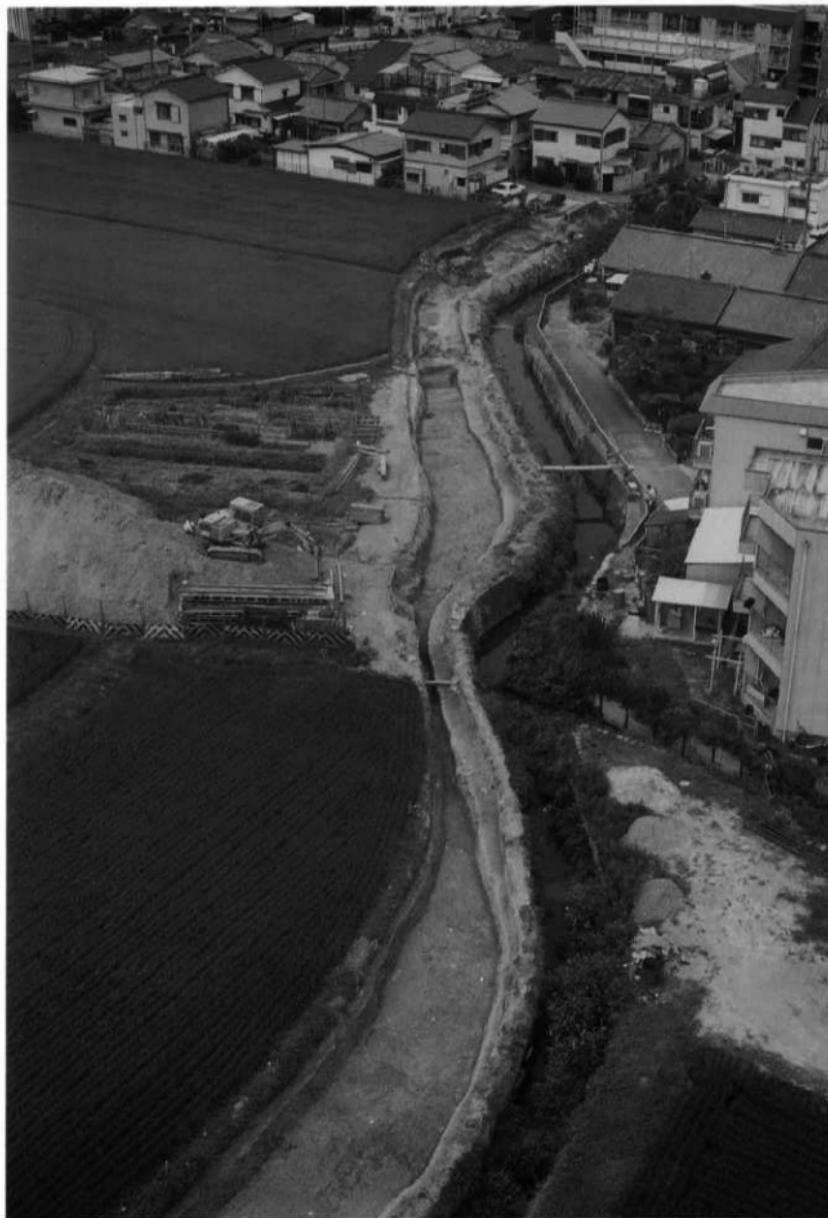
図版 5 南山下遺跡 平成二年度調査区全景・調査区スナップ



図版 6 調査区全景・調査区スナップ

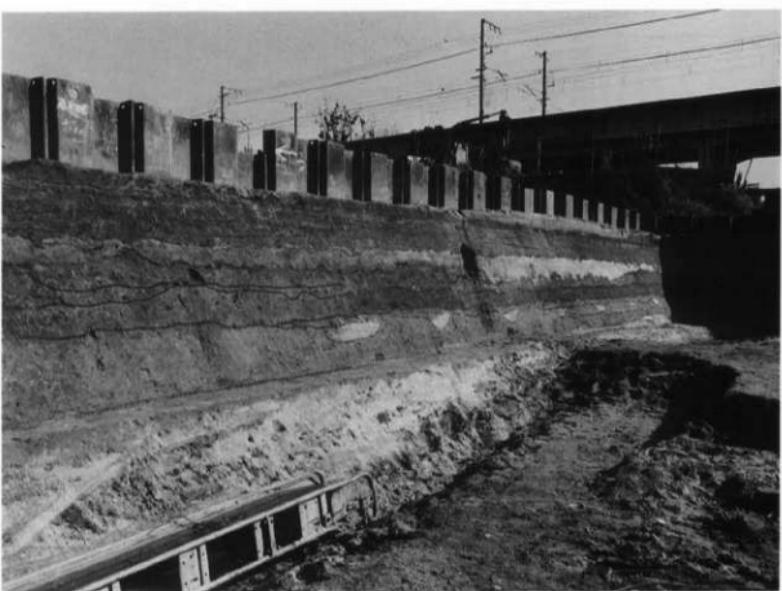


図版 7 調査区全景空中写真



図版 8 南山下遺跡 平成四年度第二遺構面犁溝・井戸検出状況





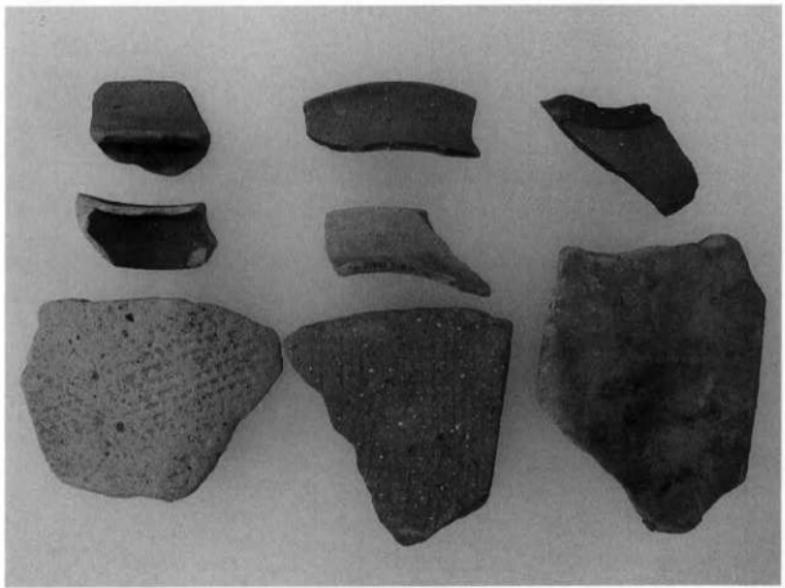
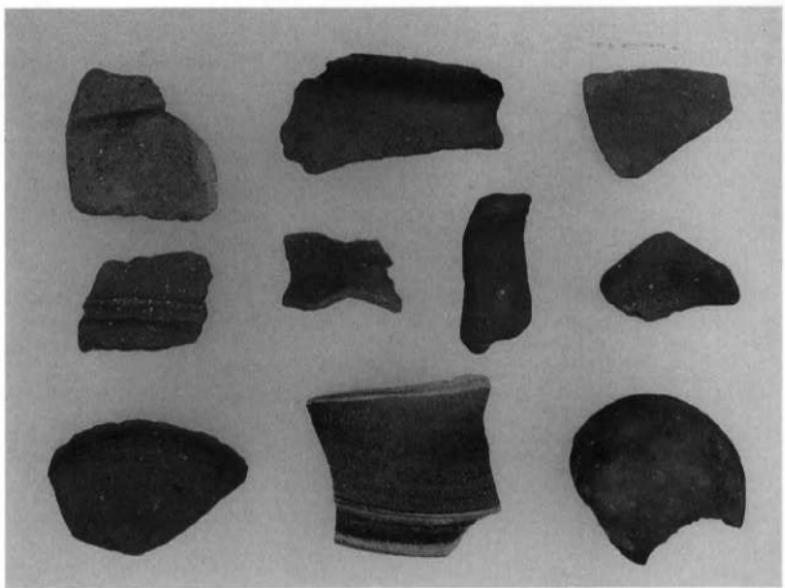
図版 10 調査区スナップ・桶出土状況



図版 11 調査区全景空中写真



図版 12 出土遺物



図版 13 南山下遺跡 平成六年度調査区全景





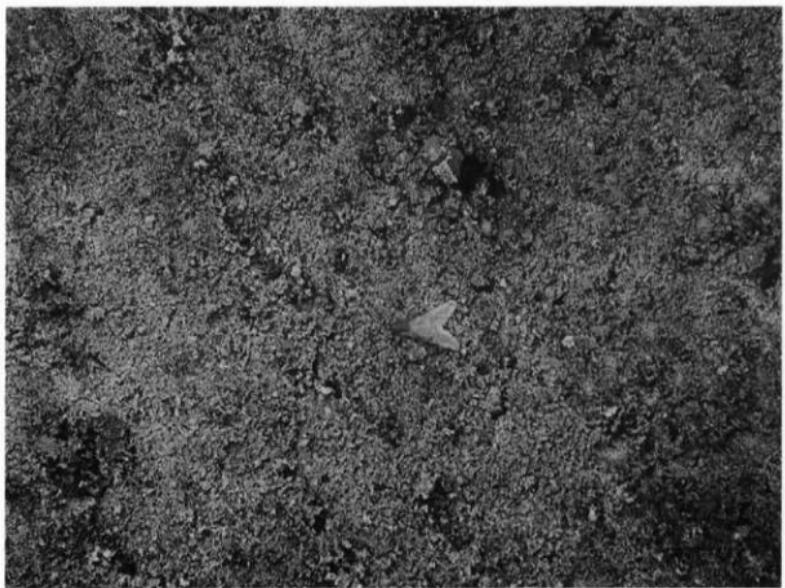
図版 15 調査区スナップ・土器出土状況







図版 18 調査区スナップ・石鎌出土状況



図版 19 南山下遺跡 平成十二年度調査区スナップ



南山下遺跡発掘調査概要報告書

平成13年3月発行

編集 四條畷市教育委員会

発行 四條畷市教育委員会  
四條畷市中野本町1-1

印刷 加地企画印刷株式会社

